

講義科目名称： 看護教育特論

授業コード： 1001X

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
山口三重子			
添付ファイル			

授業概要	看護教育特論では、看護の質の向上に寄与する国内外の諸理論や看護教育の変遷について考究し、看護教育者としての理論的基盤を養うために、諸理論と看護教育との関連性について探究する。併せて、我が国の社会的・教育的現状を反映させ、変化に対応した人間の成長・発達過程を促進し、看護の哲学と科学を追究した質の高い教育の保証について多角的に考察する。さらに、教育活動のなかで、人間に対する深い洞察力と高い倫理観をもつことの重要性や、人々の権利及び看護の質の向上を目指した看護教育を体系的に学修する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の看護教育の歴史と変遷 2. 我が国の教育体系の背景と課題 3. 看護教育の基盤となる理論 4. 看護教育における理論の検討 5. 我が国の看護教育の現状 6. 我が国の看護教育の課題 7. 看護教育と人の成長発達 8. 看護教育における看護の哲学 9. 看護教育における科学 10. 看護教育の質の保証の意義とあり方 11. 看護教育の質の保証の方法 12. 看護教育の体系化と看護の展望 13. 看護ケアの質の向上のための看護教育の意義とあり方 14. 継続教育におけるプログラムの開発 15. 臨床の場における看護教育者の役割
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 看護教育と諸理論との関連を説明できる。 (2) 看護の哲学と科学を追究した看護教育の質について理解できる。 (3) 看護の質の向上を目指した看護教育のあり方が理解できる。
授業外学修	
教科書	杉森みど里、舟島なをみ著:看護教育学 第6版、医学書院、2016
参考書	随時提示する
評価方法	到達目標 (1) に対して、レポート50%、(2) (3) に対して、発表・討議 50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
掛橋千賀子・牛尾禮子・郷間英世・高谷嘉枝			
添付ファイル			

授業概要	看護学研究特論 I では、看護研究が理論構築や看護に果たしている役割と意義を学修する。次いで看護研究の研究方法を概観するとともに、その意義や倫理的課題を検討し、研究の現状と課題を考究する。併せて、関連する研究論文を精読し、討論することで、新規性、独創性、発展性のある自己の研究課題を探究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 牛尾 看護研究が看護実践に果たしている役割と意義 2. 牛尾 看護研究の視座と展望 3. 掛橋 研究における倫理の総論 4. 掛橋 看護研究における人間としての尊厳及び権利の尊重 5. 掛橋 看護研究における倫理上の課題 6. 掛橋 看護研究における倫理審査の意義と必要性 7. 高谷 看護研究方法総論 8. 高谷 問題解決法としての質的研究法 9. 高谷 研究方法としての質的研究の意義 10. 高谷 人々の健康と生活に関する質的研究の役割 11. 郷間 医療における健康と生活支援研究の歴史 12. 郷間 看護学におけるQOL研究 13. 郷間 健康と生活支援研究の方法 14. 郷間 健康と生活支援研究の現状と課題 15. 共同 自己の研究課題の検討と明確化
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 看護に関する研究論文から意義や課題が理解できる。 (2) 看護研究における倫理の重要性が理解できる。 (3) 看護研究の目的に応じた質的研究方法が理解できる。 (4) 健康と生活支援研究の意義や現状が理解できる。 (5) 自己の研究課題の方向性が明らかにできる。
授業外学修	
教科書	指定なし
参考書	Tagliareni, Elaine:Nursing Research : Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice,Lippincott Williams & Wilkins, 2016 Holloway, Immy/ Galvin, Kathleen:Qualitative Research in Nursing and Healthcare,Blackwell, 2016 J. W. クレスウエル, V. L. プラノクラーク著/大谷順子訳：人間科学のための混合研究法. 北大路書房, 2010.
評価方法	到達目標 (1) ～ (4) に対して、レポート50%、発表・討議50%で評価する
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員			
柳修平・高橋幸代			
添付ファイル			

授業概要	看護学研究特論Ⅱでは、研究に関わる多様な方法論を学修し、エビデンスに基づく研究デザインを探究する。統計的手法とその活用による国内外の研究論文の抄読を通して、データ収集、データ解析及びアウトカム評価などの研究方法を学修する。次いで自己の研究課題に関する文献を系統的に収集し、批判的、論理的に吟味するとともに、研究計画を洗練させる方法を考究する。さらに、プレゼンテーションにより、効果的な研究成果の提示方法を学修し、発信力を身に付ける。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柳 看護研究に導入されている統計学的研究方法を用いた文献の検討 2. 柳 疫学における因果関係および交絡要因 3. 柳 データ収集とデータ解析の関連 4. 柳 予測及び分類のための統計解析手法 5. 柳 アウトカム評価における統計的方法 6. 柳 アウトカム評価に関する文献検討 7. 柳 メタアナリシスの基本手順 8. 柳 メタアナリシスに関する文献検討 9. 高橋 構成と発信力に関する基礎的技術（国際学会でのプレゼンテーション1） 10. 高橋 効果的な伝達と対応力に関する基礎技術（国際学会でのプレゼンテーション2） 11. 高橋 プレゼンテーションの実施と相互評価（国際学会でのプレゼンテーション3） 12. 柳 研究計画における質の評価と判断基準 13. 柳 エビデンスに基づく研究デザイン 14. 柳 研究課題領域の研究デザイン 15. 共同 自己の研究課題に関連づけたプレゼンテーションと討議
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 統計解析手法を目的に応じて説明することができる。 (2) 統計的手法を用いた文献をクリティカルに読むことができる。 (3) エビデンスに基づいた研究デザインを提案できる。 (4) 研究成果を効果的に提示・発信する力を身につけることができる。
授業外学修	
教科書	指定なし 講義中に適宜紹介する
参考書	EBMのための臨床疫学 改訂第2版、中外医学社、2017 医薬研究者のための研究デザインに合わせた統計手法の選び方、金芳堂、2009 メタ分析入門 心理・教育研究の系統的レビューのために、東京大学出版会、2011 医学への統計学（第3版）、朝倉書店
評価方法	到達目標（1）～（4）に対して、レポート40%、発表・討議 60%で評価する
オフィスアワー	必要時に、メールでアポイントメントをとること
メッセージ	

授業形態

遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
掛橋千賀子 森崎直子 他			
添付ファイル			

授業概要	成人・高齢者看護学特論では、患者と家族に対する緩和ケアのあり方について、国内外の研究の動向を検討し、我が国の課題を考究する。エンドオブライフにおける倫理的課題として意思決定を中心に検討し、健康と生活の支援を探究する。地域ケアシステムの変化を包括的に把握し、マネジメントするための方法について学修する。また、高齢者のQOLと生活を支える口腔機能に関連する要因を探究し、ニーズに適したケアを考察する。併せて、高齢者と介護保険制度の現状を把握し、介護保険施設及び在宅における要介護高齢者のケアニーズを考究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアに関する歴史的変遷と最近の研究の動向 2. 我が国と諸外国との緩和ケア研究の比較検討 3. がん患者の緩和ケアにおけるQOLの検討と課題 4. エンドオブライフケアの課題 5. 掛橋 がん患者と家族の支援ニーズに関する検討 6. 掛橋 がん患者と家族への具体的支援に関する検討 7. 掛橋 エンドオブライフにおける倫理的課題 8. 掛橋 エンドオブライフにおける意思決定に関する検討 9. エンドオブライフにおける意思決定に関する検討 10. 地域看護管理と地域包括ケアシステムの現状と課題 11. 森崎 高齢者と介護保険制度の現状及び介護保険施設入居者のケアニーズ 12. 森崎 虚弱（フレイル）高齢者と在宅高齢者のケアニーズ 13. 森崎 高齢者の健康関連QOLと口腔機能（摂食・嚥下機能）の関連性 14. 森崎 高齢者の口腔機能の意義と評価法及び誤嚥性肺炎と口腔ケア 15. 森崎 修得した内容と自己の研究課題に関連づけた討議及びレポート
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 緩和ケアに関する我が国の課題が理解できる。 (2) がん患者と家族の支援について説明できる。 (3) エンドオブライフにおける倫理的課題と意思決定支援について説明できる。 (4) 地域ケアシステムの現状と今後の方向性について理解できる。 (5) 介護保険施設及び在宅で生活する要介護高齢者の現状と課題を説明できる。 (6) 高齢者における口腔機能の意義を理解し、口腔機能の関連要因とケアについて理解できる。
授業外学修	
教科書	内閣府編：高齢社会白書、日経印刷
参考書	Henry, Kristina, Utley, Rose : Frameworks for Advanced Nursing Practice and Research: Philosophies, Theories, Models, and Taxonomies, Springer, 2017 小川朝生、志真泰夫他：新版 がん緩和ケアガイドブック、青海社、2017 H.M. チョチノフ著/小森康永、奥野 光訳：ディグニティセラピー最後の言葉、最後の日々、北大路書房、2013 全国老人保健施設協会編：介護白書、TAC出版
評価方法	到達目標（1）～（6）に対して、レポート60%、発表・討議 40%で評価する

オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

講義科目名称： 成人・高齢者看護学特別研究

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3年	4単位	選択
担当教員			
掛橋千賀子・鈴木千絵子・藤野文代・柳修平・森崎直子・高谷嘉枝・西村伸子・小林廣美			
添付ファイル			

授業概要	特別研究では、共通科目及び専門科目の特論での学修を基に、成人・高齢者や家族の健康課題について、新規性、独創性のある研究テーマ、研究目的、研究方法等の検討を重ね、研究を計画的に遂行し、結果を分析、考究する。併せて、研究成果を一貫性のある論文としてまとめる。論文を推敲し、博士論文として仕上げることで、自立して研究できる能力を身につける。
授業計画	<p>1～5 自己の研究課題について、研究計画書を作成する</p> <p>6～10 研究倫理的課題の検討と、提出書類を作成する</p> <p>11～17 研究フィールドでのインフォームドコンセントの実施する</p> <p>18～24 データの収集、分析を行う</p> <p>25～27 関連学会等で報告するために研究成果をまとめる</p> <p>28～30 得られた研究成果についてまとめ、中間発表を行う</p> <p>31～37 中間発表の結果を踏まえて、論文の再構成を行う</p> <p>38～48 研究結果について、科学的知見としての意味や社会的意義についての検討する</p> <p>49～55 博士論文審査を受け、論文を再検討する</p> <p>56～60 博士論文として、提出する論文を完成させる</p>
到達目標	<p>【2年次】 倫理審査に提出する書類及び研究計画書の作成ができる。 研究計画書に沿って、データを収集し、分析・結果・考察ができる。 研究結果の一部をまとめ、関連学会で発表できる。 研究をまとめ中間発表会で発表し、質疑に適切に応答できる。</p> <p>【3年次】 中間発表の結果を踏まえて論文の再検討ができる。 最終審査に向けて博士論文をまとめることができる。</p>
授業外学修	
教科書	
参考書	
評価方法	論文の内容を総合的に評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
郷間英世 幸福秀和 牛尾禮子 山口三重子			
添付ファイル			

授業概要	障害児・者支援学特論では、障害児・者研究における国内外の最近の動向や知見を、広く検討する。重症心身障害児・者及び発達障害児・者と家族のQOL、特に母親の生活活動や生活状況を把握することによって課題を明確にし、健康と生活への支援方法を考察する。また、重度障害児・者の生命や人権について考究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 郷間 障害児・者に関する研究の動向と最近の知見 2. 郷間 重症心身障害児・者研究の現状と課題 3. 郷間 発達障害児・者研究の現状と課題 4. 郷間 障害児・者支援におけるQOL研究 5. 幸福 障害児・者の生活活動の意義と課題 6. 幸福 生活の評価方法の考察及び新たな評価方法の検討 7. 幸福 障害児・者の生活支援の現状と課題 8. 牛尾 重症心身障害児・者と養育者の生活実態 9. 牛尾 重症心身障害児・者と家族（特に母親）のニーズと生じやすい生活上の課題 10. 牛尾 重症心身障害児・者の親の養育態度の検討 11. 牛尾 重症心身障害児・者と家族の環境がQOLに及ぼす影響 12. 山口 重度障害児の発症と倫理的課題 13. 山口 重度障害児・者の治療決定過程の特質と課題に関する検討 14. 山口 重度障害児・者の生命の価値に関する考察 15. 共同 修得した内容と自己の研究課題に関連づけた討議及びレポート
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 障害児・者研究の現状と課題を理解できる。 (2) 障害児・者の生活活動を評価し、新たな支援の方向性について説明できる。 (3) 障害児・者の養育者と家族の生活状況を把握し、生じやすい課題について理解できる。 (4) 障害児・者と家族に対する支援方法の構築の必要性が理解できる。 (5) 重度障害児・者の生命の価値について理解できる。
授業外学修	
教科書	日本発達障害連盟編：発達障害白書2020年版、2019（毎年発行）
参考書	朝倉次男編：重症心身障害児のトータルケア 改訂第2版、ヘルス出版、2017 日野原重明監修：看護に生かすQOL評価、中山書店、2003 山口三重子：重症障害新生児の治療をめぐる医療と法、医学書院、2009
評価方法	到達目標（1）～（5）に対して、レポート60%、発表・討議 40%で評価する
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

講義科目名称： 障害児・者支援学特別研究

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2～3年	4単位	選択
担当教員			
牛尾禮子・山口三重子・郷間英世・幸福秀和・二重佐知子			
添付ファイル			

授業概要	特別研究では、共通科目及び専門科目の特論での学修を基に、障害児・者や家族の健康課題について、新規性、独創性のある研究テーマ、研究目的、研究方法等の検討を重ね、研究を計画的に遂行し、結果を分析、考究する。併せて、研究成果を一貫性のある論文としてまとめる。論文を推敲し、博士論文として仕上げることで、自立して研究できる能力を身につける。
授業計画	<p>1～5 自己の研究課題について、研究計画書を作成する。</p> <p>6～10 研究倫理的課題の検討と、提出書類を作成する。</p> <p>11～17 研究フィールドでのインフォームドコンセントの実施する。</p> <p>18～24 データの収集、分析を行う。</p> <p>25～27 関連学会等で報告するために研究成果をまとめる。</p> <p>28～30 得られた研究成果についてまとめ、中間発表を行う。</p> <p>31～37 中間発表の結果を踏まえて、論文の再構成を行う。</p> <p>38～48 研究結果について、科学的知見としての意味や社会的意義についての検討する。</p> <p>49～55 博士論文審査を受け、論文を再検討する。</p> <p>56～60 博士論文として、提出する論文を完成させる。</p>
到達目標	<p>【2年次】 倫理審査に提出する書類及び研究計画書の作成ができる。 研究計画書に沿って、データを収集し、分析・結果・考察ができる。 研究結果の一部をまとめ、関連学会で発表できる。 研究をまとめ中間発表会で発表し、質疑に適切に応答できる。</p> <p>【3年次】 中間発表の結果を踏まえて論文の再検討ができる。 最終審査に向けて博士論文をまとめることができる。</p>
授業外学修	
教科書	
参考書	
評価方法	論文の内容を総合的に評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用